

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 本田勝義
指導教授氏名	中路重之
論文審査担当者	主 査 大門 眞 副 査 早狩 誠 大山 力
<p>(論文題目) 非糖尿病一般住民における肥満が糖代謝関連項目に及ぼす影響 INFLUENCE OF OBESITY ON GLUCOSE METABOLISM IN ADULTS</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>糖尿病は種々の合併症を引き起こし、QOLの低下、生命予後の悪化をもたらす疾患である。また、糖尿病予備軍といわれる軽度の耐糖能障害者でも大血管障害の発症率が高い事が分かっている。そこで、申請者は、肥満(体重増加)が糖尿病に繋がる大きな要因である事より、肥満に着目し、肥満関連因子と非糖尿病レベルの軽度の耐糖能異常との関連を調べ、有用な肥満関連因子の検索を行った。申請者は、弘前大学社会医学講座が中心と成って行っている岩木健康増進プロジェクト参加した非糖尿病患者 537名を対象に横断解析を行った、肥満関連因子としては、ウエスト、体脂肪率、BMIを、耐糖能異常の指標としては血糖値、HbA1c等の一般的な項目に加えて、Cペプチド、TNF-α、IL-1β、Resistinも測定した。また、対象を男性、閉経前女性及び閉経後女性に分けて解析した。</p> <p>肥満関連因子は閉経後女性においてのみ血糖値と相関し、HbA1cに対しては男性でも相関したが、閉経前女性ではいずれの指標に対しても有意な相関は見られなかった。Cペプチドとの関連は全ての群で見られた。糖尿病関連のその他の因子との関連は、男性及び閉経後女性で見られたが、その関連はウエストでは傾向に留まり体脂肪率で顕著(有意)であった。以上より、肥満関連の指標としてはウエストより体脂肪率の方が良いと思われたとの報告。次に、メタボリックシンドロームの診断基準には体脂肪率ではなく一般診療で測定出来るウエストが入っているが、このウエスト基準の妥当性についてウエストで層別化(5cmきざみ)し、79cm以下を対照に有意な増加を示すウエストの一を求めたところ、男性ではHbA1cは85cm以上で、Cペプチドは80cm以上で有意であった。閉経前女性では、Cペプチドのみ90cm以上で、閉経後女性では、血糖値、TNF-α、は85cm以上で、HbA1c、Cペプチドは90cm以上で有意であった。以上より、耐糖能異常を抑える為には、現在のメタボリックシンドロームのウエスト診断基準より厳しい男性80cm、女性85cmが望ましいと思われるとの由。</p> <p>上記の知見は社会医学の見地からも重要な点で、学位に値する研究と思われる。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌(JPFNI) 2014;24:印刷中